

2025 年度 安全目標検討合同 WG の検討について

1. 体制

- ✓ 2025 年度においても、リスク部会および原子力安全部会の合同 WG として進める。WG のメンバーは「SGWG 7-2 WG 名簿」のとおりとする。必要に応じてメンバーの追加を行う。

2. WG 会合の運営

- ✓ 会合の回数は昨年度から通してカウントする。したがって、2025 年度第 1 回は第 7 回 WG とする。資料番号は SGWG 7- とする。
- ✓ 議長は両部会の部会長が交代で行う。第 7 回はリスク部会長。
- ✓ 会合の資料は、開催後、すみやかに部会 HP に掲載する。議事録は、次回 WG 会合にて確認ののちに部会 HP に掲載する。

3. WG の 2025 年度の目的と目標

- ✓ 目的は昨年度と同様に、「今後の我が国の原子力安全目標にかかる検討に役立つこと」とする。将来的には我が国の安全手目標の制定につながる活動を行う。
- ✓ そのために、「2024 年度に作成した論点について深掘りを行う」ことを目標とする。

4. 検討項目

(1) 具体的なリスク情報活用事例に安全目標・性能目標を適用する際の課題検討

安全目標・性能目標をその適用の視点から検討する。リスク情報活用の取り組みの実例を対象にして困っていること、解決できていない課題について、性能目標とその適用から解決策を検討する。

具体的なリスク情報活用のプロセスにおける安全目標・性能目標の適用を検討することは、効果的な深掘りが可能と考える。現時点で具体的に進んでいる OLM（運転中保全）の取り組みを対象に 2024 年度に上げた論点を参照して、実施における課題を検討する。

電中研 NRRC から発行されている「運転中保全ガイドライン –適用範囲拡大（複数系統同時実施等）–」（2023 年 10 月）の実施フローの各ステップに、WG 報告書に記載した論点のなかで関係するものを記載した。

(2) 公衆に向けた側面の検討

2024 年度の WG の検討では社会との関係について、文献調査の時間があまりなかった。そこで社会科学関係の文献を調査し、論点を検討した。

5. 今年度のスケジュール

2024 年度 WG 報告書に記載した

- ①事業者や規制機関などの関係機関との意見交換
 - ②シンポジウムの開催
 - ③東大・JAEA の国研連携講座の「安全目標に関する検討委員会」との連携
- について、論点の深掘り検討の進捗を見ながら、関係組織と相談して進めていく。

以上